

2026 9							10							11							12							2027 1							2							3							4						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5	3	4	5	6	7	8	9		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6					1	2	3	
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	10	11	12	13	14	15	16	7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	17	18	19	20	21	22	23	14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	24	25	26	27	28	29	30	21	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
27	28	29	30	25	26	27	28	29	30	31	29	30	27	28	29	30	31	27	28	29	30	31	31	28	29	30	31	28	29	30	31	28	29	30	31	25	26	27	28	29	30														


■ 企画展示 ■ コレクション展示 ■ 公募展 ■ 特別展示

*所載表記のない作品は群馬県立近代美術館蔵


展示室 1

11/28~1/31 ----->


ウジェーヌ・ブーダン展
印象派の父—光を求めて



《ヴェネツィア、サン・ジョルジョ・マッジョーレ》
1895年頃 ランス美術館蔵
(inv.907.19.28) C. DEVLEESCHAUWER ©



《若い女性の肖像》
1880年頃 ウジェーヌ・ブーダン美術館蔵
(Inv.899.1.3) Honfleur, musée Eugène-Boudin / Henri Brauner



《水飲み場の牛の群れ》
1880年 ランス美術館蔵
(inv.907.19.33) C. DEVLEESCHAUWER ©

2/20~4/4 ----->

歌川豊国と歌川派の浮世絵展
—国貞も国芳も、はじまりは豊国—



歌川豊国
《七代目市川團十郎の三浦荒男之助》
文化10(1813)年
中右コレクション



パブロ・ピカソ
《魚、瓶、コンボート皿
(小さなキッチン)》

展示室 2

9/19~11/8 ----->

日本と西洋の近代美術 I



佐伯祐三
《パリ郊外風景》



片山真理
《on the way home #001》

9/19~11/8 ----->

新収蔵作品紹介

11/20~11/29 ----->

第77回
群馬県展
美術

12/5~12/15 ----->

第77回
群馬県展
書道
(12/10展示替休館)

12/22~4/4 ----->

日本と西洋の近代美術 III

1/23~4/4 ----->

群馬青年ビエンナーレ50周年記念特別賞 受賞作家展
郭家伶



郭家伶
《无人餐厅(人のいないレストラン)》
2020年 作家蔵
「群馬青年ビエンナーレ2021」入選作品

展示室 4

9/19~11/8 ----->

孤高の彫刻家 村山琴泉



《犬持つ農夫》
ハラサワコレクション
photo: 毛利聡



伝 蛇足《山水図(秋景)》
重要文化財

11/20~12/20 ----->

日本と西洋の近代美術 II



マリー・ローランサン
《ブルドッグを抱いた女》

12/22~2/28 ----->

情景・冬から春へ



山口薫
《サラサラ粉雪ふる》

3/2~4/4 ----->

ファイバーワークの世界



碓辺晴美
《いにしえの軌跡》

展示室 5

9/19~10/12 ----->

戸方庵井上
コレクションの粋 I

10/14~11/8 ----->

戸方庵井上
コレクションの粋 II

レクチャー／ギャラリートーク

ミュージアム・レクチャー

「ウジェーヌ・ブーダン展」会期中、関連したテーマによる連続講座等を予定しています。

サンデー・ギャラリートーク

10～3月の毎月第2日曜日　14:00～14:40

学芸員がコレクション展示作品について解説します。

*この他、各展覧会の関連事業として記念講演会、学芸員による作品解説会等を予定しています。

イベント／ワークショップ

出張ミニワークショップ

開催期間　5月～8月(1か月前までに要申込)

美術館スタッフが公民館や高齢者施設などに出向いて創作ワークショップを行います。詳細はホームページをご覧ください。

こども+おとな+秋の美術館

9/19[土]～11/7[土]　毎週土曜日(計8回)　10:00～16:00

申込不要・無料のミニワークショップを開催します。

美術館アートまつり

3/7[日]　10:00～12:00／13:00～15:00

簡単な工作やゲームなど様々なプログラムを楽しめる1日です。

多様な鑑賞のかたち

トークフリーデー

10～3月の毎月第3土曜日　終日

どなたでも気兼ねなく作品についておしゃべりしながら鑑賞ができる一日です。

こどもアートツアー

11～3月の毎月第3土曜日　14:00～16:00

幼児から小中学生までを対象に、ワークシートなどを使って楽しく作品を鑑賞します。親子での参加も歓迎します。

ボランティアによるイベント等

ボランティアによる作品解説

美術館ボランティアがコレクション展示について随時解説します。

ボランティアによる茶席

10、11、12、2、3月の第1土曜日　11:00～　申込不要(定員30名)

参加費(茶券)600円(ミュージアムショップにて販売)

館内の茶室にて、美術館ボランティアによる呈茶席を設けます。

学校との連携プログラム

学校団体の見学サポート、出張授業、教員対象研修などを行っています。

*要申込

*詳細についてはお問い合わせください。

*記載内容については変更することがあります。

群馬県立近代美術館友会の会

美術館を支援する団体です。入会すると以下の特典があります。

- 「群馬県立近代美術館」と「群馬県立館林美術館」で開催される展覧会のうち、両館あわせて2回を無料で、それ以外は半額で観覧できます。
- 「高崎市美術館」、「高崎市タワー美術館」、「高崎市山田かまち美術館」を団体割引相当額で観覧できます。
- 上記5館の展覧会や会員限定イベントなどの情報が定期的にお手元に届きます。
- 賛助会員は、上記のほか近代美術館のレセプション招待や会報及び館内等での会員名紹介(希望者のみ)などの特典があります。

会員種類と年会費(有効期間は4月1日～翌年3月31日)

- 一般会員(個人) 2,500円
- 学生会員(高校・大学・各種専修学校在学中の個人) 1,000円
- 家族会員(同居2人分) 3,500円(3人以上は1人あたり1,000円追加)
- 個人賛助会員　1口 10,000円　1口あたり会員証5枚
- 法人賛助会員　1口 20,000円　1口あたり会員証10枚

利用案内

開館時間　9:30～17:00(入館は16:30まで)

休　館　日　月曜日(休日の場合はその翌日。11/24、12/7、12/14は開館)
展示替・メンテナンスのための休館日(カレンダーに記載)
設備更新工事のための休館日(4/1～9/18)

観　覧　料

企画展示

展覧会によって異なります。なお、企画展示の料金がコレク

ション展示もご覧いただけます。

特別展示・コレクション展示

一般300(240)円、大高生150(120)円

※(　)内は20名以上の団体割引料金

※中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名、群馬県民の日(10/28)に観覧される方は無料です。

割　引　「**共通パスポート**」(一般4,300円)　県有施設に1年間フリーで入場できるパスポート
「**くーちよきシニアパスポート**」　平日のみ、県内在住65歳以上の方が利用できるパスポート(2割引)
※チケット窓口にて販売・発行しています。

施　設　ミュージアムショップ、絵本コーナー「えほんの森」
レストラン「森のレストラン　ころむす」(Tel. 027-346-5500)
講堂、茶室(貸可。詳細はお問い合わせください。)

設　備　車いす／多目的トイレ(1F)／ベビーカー／おむつ替台／授乳・救護室／コインロッカー／エレベーター

交通案内

電車・バス

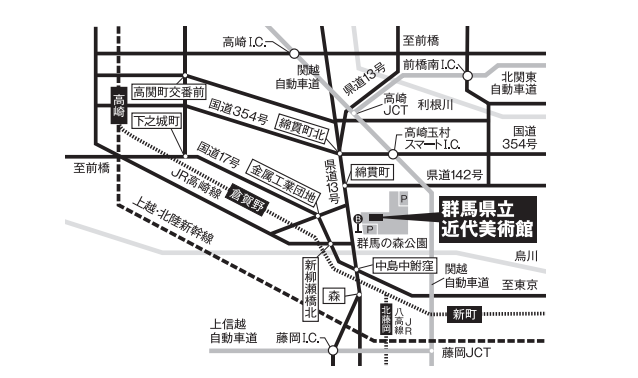
JR高崎線・湘南新宿ライン・上野東京ラインまたは上越・北陸新幹線で高崎駅下車(新幹線は東京駅より約60分)。JR高崎駅東口より、市内循環バスぐるりん「群馬の森線」9系統(約38分)、10系統(約26分)、または「岩鼻線」15系統(約25分)で、いずれも「群馬の森」下車(200円)。

タクシー

JR高崎駅東口より約20分。JR倉賀野駅より約10分。JR新町駅より約10分。

車

関越自動車道「高崎玉村スマートI.C.」(ETCのみ)より高崎方面に向かい、県道13号を藤岡方面に約8分。上信越自動車道「藤岡I.C.」高崎方面出口より出て、県道13号を前橋方面に約10分。北関東自動車道「前橋南I.C.」より県道13号に出て、藤岡方面に約15分。県立公園「アイ・ディー・エー群馬の森」駐車場をご利用ください(無料)。



表紙：ウジェーヌ・ブーダン《ヴェネツィア、サン・ジオルジョ・マッジョーレ》(部分)1895年頃、ランス美術館蔵　(inv.907.19.28) C. DEVLEESCHAUWER ©（「ウジェーヌ・ブーダン展」出品予定作品）

群馬県立近代美術館
THE MUSEUM OF MODERN ART, GUNMA
〒370-1293 高崎市総貫町992-1
Tel. 027-346-5560 Fax. 027-346-4064 https://mmag.pref.gunma.jp/



おもな展覧会の内容

 ■企画展示 ■特別展示

孤高の彫刻家　村山琴泉

2026年9月19日[土]—11月8日[日]　展示室4、5

観覧料：一般300(240)円、大高生150(120)円　*(　)内は20名以上の団体割引料金

村山琴泉(1885-1967)は、明治から昭和を生きた前橋出身の彫刻家です。1900年に上京し、牙彫家の金田兼次郎のもとで学び、《猿曳》(1903年)《親月》(1904年)《輜重兵》(1908年)などで頭角を現し、めざましい活躍をみせます。しかし、兵役を終え1910年に帰郷後は木彫に専念、次第に団体展から遠ざかり独自の道を歩むようになりました。牙彫で培った繊細な彫りを活かして肖像彫刻などの注文に応えたほか、晩年には「琴泉焼」と称した石彫も制作しました。彫刻の歴史を多角的にとらえる試みが盛んな今、幸いにもご遺族の努力によって保存され、地元の熱心なコレクターによって蒐集された作品の数々から、孤高の彫刻家と称される村山琴泉の作品を美術館で初めて取り上げます。

ウジェーヌ・ブーダン展　印象派の父―光を求めて

2026年11月28日[土]—2027年1月31日[日]　展示室1

観覧料：一般1,200(960)円、大高生600(480)円　*(　)内は20名以上の団体割引料金

本展は、「印象派の先駆者」「印象派の父」と呼ばれる19世紀フランスの画家ウジェーヌ・ブーダン(1824-1898)の画業を紹介する展覧会です。ブーダンは故郷ノルマンディーの空、海景、牧場の牛などをみずみずしい色彩と軽快な筆運びで表現したことで知られます。戸外で自然をじかに観察しながら、うつろいやすい光や大気を描写する制作手法で若きクロード・モネをはじめとする当時の画家たちに大きな影響を与えました。特に空や雲の表現は詩人ボードレールに「氣象学的美的世界」と評され、バルビゾン派の画家コローに「空の王者」と称賛されています。日本では約30年ぶりの本格的な展覧会となる今回は、人物や建築モチーフなどにも焦点を当てつつ、油彩、素描、パステル、版画など合計約100点の作品により、近代風景画の発展に大きく寄与したブーダンの魅力を新たな視点で問い直します。

群馬青年ビエンナーレ50周年記念特別賞　受賞作家展　郭家伶

2027年1月23日[土]—4月4日[日]　展示室3、4、5

観覧料：一般300(240)円、大高生150(120)円　*(　)内は20名以上の団体割引料金

当館が主催する「群馬青年ビエンナーレ」は、16～29歳の若手作家を対象としたジャンルを限定しない公募展です。前身である群馬青年美術展は1976年に始まり、91年から隔年開催のビエンナーレとしてリニューアル、さらに2001年からは全国公募となり、これまで優れた作家を数多く輩出してきました。本展は、「群馬青年ビエンナーレ50周年記念特別賞」受賞作家、郭家伶による受賞記念展です。郭は1994年中国に生まれ、2022年に東京藝術大学大学院修了、以後東京を拠点に活動を続けています。変形キャンバスを支持体とした絵画作品やそれらを組み合わせたインスタレーションにより、自らが感じている文化的ギャップや違和感、アイデンティティの揺らぎを表現する郭が、当館の巨大なホワイトキューブのなかでどのような作品を展開するか、ご期待ください。

歌川豊国と歌川派の浮世絵展　一国貞も国芳も、はじまりは豊国一

2027年2月20日[土]—4月4日[日]　展示室1

観覧料：一般1,000(800)円、大高生500(400)円　*(　)内は20名以上の団体割引料金

最新トレンドは何かしら？ 推しのタレントは？ 癒しのスポットはどこだろう？ 江戸時代の人々の関心は、私たちがSNSやニュースで追いかける話題と同じであり、浮世絵はそうした「時代」を映すメディアの一つでした。この浮世絵界を圧倒的な人気で独走したのが「歌川派」と呼ばれた絵師集団です。歌川豊国を筆頭に、役者絵の国貞や武者絵の国芳、風景画の広重と、個性豊かな絵師が活躍しました。本展は、稀少な開祖豊春の浮世絵を含めて180点以上を公開し、歌川派の魅力を紹介します。